

(実践報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	当院の皮膚科コンサルテーションシステムを利用した皮膚科教育の方法
演者名	小比賀恵美子 1) 仲野真由美 2) 中島千恵子 3) 増井法子 4) 佐藤浩子 5) 市橋亮一 6)
所属	1)～6)医療法人かがやき 総合在宅医療クリニック

【目的】在宅医療における皮膚科領域のトラブルが占める割合は大きく、医師、看護師へのより専門的な教育は重要と考える。当院の皮膚科医は非常勤で週に 1 日勤務しており、その専門知識を他の職種へ効率よく教育しつつ、日常診療や訪問看護の質の向上を図るためのシステムを検討する。

【実践内容】皮膚科医を中心に、管理栄養士、看護師の皮膚科診療専門チームを院内に設立した。皮膚科診療の質の向上のためにどのような方法が良いのかを年に一度の業務改善会議で決定し目標を定め実践した。目標 1 皮膚科医の診断の根拠、治療の方法を標準化しクリニック内で勉強会を行う。目標 2 皮膚トラブルのある患者の患部をスマートフォンで撮影し、毎週金曜日に皮膚科医へコンサルテーションを行う。目標 3 他事業所に皮膚科専用アドレスを伝え、経過報告及び情報共有を行う。

【実践効果】

目標 1：皮膚科診療専門チームは「在宅医療でよくみる皮膚疾患」に対して治療方法の標準化を行い皮膚科処方マニュアルを作成した。マニュアルに基づき、院内で医師や看護師に対し勉強会を開催した。マニュアルは常に携帯し、訪問診療や訪問看護の場面で活用されている。

目標 2：毎週金曜日のカンファレンス時に、皮膚科医に患部の写真をみせコンサルテーションを行った。開始当初は看護師は皮膚科医の指示を受け対処していたが、徐々に皮膚トラブルに対し、最近では皮膚科医師へその時のアセスメントとその対処について報告出来るようになった。

目標 3：他事業所から患者の経過報告を受けることで、タイムリーに情報共有でき、迅速に対応し治療促進に繋がった。

【考察】

皮膚科診療専門チームを立ち上げ、治療方法の標準化・定期的に実践的なコンサルテーションを重ねたことで、スタッフの皮膚疾患に対するアセスメント能力が向上し、現場でクリニック内で統一された適切な処置が出来るようになったと考える。